

清水先生の印象

野口新太郎

○榮轉を祝す

清水先生が此の度名古屋へ御榮轉され...

○紡績科創設時代の先生

先生が母校に初めて赴任されたのは...

○先生の御印象

私の先生に對する印象は可成り深い...

○酒は忌門

こんな方能大家清水先生にも只一つ...

○先生は紡績科から考へると莫大小、色...

先生は紡績科から考へると莫大小、色...

清水先生の御発展を祈る

小松忠一郎

先生は母校に在職して二十年に近く...

清水先生を送る

突然清水先生が家事上の種々の御都合...

清水先生を送る

日頃人一倍筆不淨の質で恩師清水先生...

清水先生を送る

ルミーリになつたりしたものである...

清水先生を送る

清水先生を送る

史汀餘稿

草野史郎

北滿詩行(其の五)

新京に著いたのは五月二十六日の朝六時頃でした。蠶十七出の本間國夫君が驛に來て呉れておました。

私と本間君とは勿論未知未見の間ですけれども湯川兄から連絡がとつてあつたのです。

未知未見の人と異境の驛で探すにはどうすればよいか?私には考へませんでした。

「サウダ。千曲會員の徽章を佩んで行かう。そしてそれを先方に通じておけば双方がこれをメアチに探し成功(ばよい)」。私は新京で此の方法に成功しました。

そして直に本間君を探してあつた。安東で堤君に會つた時にも此の手を使ひました。千曲會の會員マークが今度の旅行に役立つ事を茲に書き添へて置きます。

名古屋に筆者を訪ねて下さる未知未見の會員諸君もせめて驛頭丈でも佩用して居て下さい。彼所へはキザですがね。探すのに非常に便利ですから。

満人とロシア人の中に光る千曲哉

最初にも述べました如く今度の旅行は全くプライベートでしたから官廳その他公の所へは一切行かない事に決めておました。然し新京では同窓諸君の活動の状況を拜見旁々請はれる儘に二三の役所へも参りました。古い處では濱君、本間君新しい處では出野君など非常な元氣で活躍して居られるのを見て心強く感じました。其の夜は五人でサケパーティーを催して下さつてお互に仲々の氣焔でした。其の時の情景は合作で速報し時報六月號に載つてゐますからモウ一度御覽を願ひます。全くなごやかな面かほはちきれるやうな元氣に満ちたパーティーでした。

新京に來て心境を語るわれ

満洲事變と云ふのは昭和六年九月十八日午後十時廿分、中國正規兵が奉天柳條溝附近の我が鐵路を爆破した事に端を發してゐます。……なんて今頃そんな講演は不要でせう。兎に角この事變以來到る

處で皇軍が機先を制し機敏な行動に出た事は最近色々な映畫になつて公開されてゐますので御承知の事です。其處で新京の寛城子南嶺などはその尤たるものでせう。私は本間君と二人で南嶺の戦跡を訪ひ四十三士の英靈に對し心からなる敬意を捧げました。私は軍隊の事は一向解りませんが、兎に角角ダイシタものでせう。山鹿ハツと云ふ五十幾つのおバサンが事變の年の十一月南嶺に來て枯れた藪の中に點々建てられた墓標に感じ踏めとま

つて御墓の守りをしやうと思ひたち今日に至る迄の其の心盡しなどそのおバサンから聞かされセンチな私にはとても禁へられない氣持ちでしたが、私ばかりでなく此の戦跡を訪ねる誰でも優さしい難有い一種話として忘れられぬものでせう。誰をかも忘れて立つた五六分

満洲國建設!そしてその國都を何處に定めるか?これは大きな?であつたでせう。それには甲論乙駁紛糾したさうです。私は曾て滿洲國建設の大恩人駒井徳三氏の講演を直接聞き、また同氏の著「大滿洲國建設録」を讀んで國都を長春現在の新京に定められた詳細を知つてゐます。私は今その新京に居るのであります。人口十萬の一都邑に過ぎなかつた長春が新國家の成立と共に一躍大滿洲國の首都として日に々伸び行く其の姿は全く新興そのものです。

私の感じた一つは町名のつけ方です。一定の意味があつて而かも六十間に百二十間のアロツクを存してゐるので非常に判り易いです。例へば驛前の北廣場から中央通、日本橋通、敷島通と三大街が放射状になり縦は東西の一、二、三條に則り、横はイロハ順の利泉町、露月町、ヒフミ順の日出町、富士見町、アイウエオ順の曙町、入船町の如く都市計畫されてゐる事です。日本の町名もさうありたいですね。

満洲の國新しき京哉

新京には電車がありませんよ。將來も敷設しないさうです。何故?そんな事は私に聞いて下さつても判りません。大體

の想像はつくでせうがね。質問者のあなただも御考へになれば判るでせう。

交通機關は自動車と馬車です。馬車は滿洲特有のものですが北滿と南滿は形は勿論總てが違ひます。私は某新聞に兩者を比較した繪(俳諧)を掲げましたら非常な賞賛を得ました。寫眞でも御目にかければ御解りでせうが。

ソノ馬車に乗つてホロ酔氣分で鈴の音を聞くのは夢の國のやうです。私はいつ迄もくそうしてゐたかつたのです。鈴と云へば蒙古を踏駝に乗つて聞いた鈴の音も忘れられない記憶の一つですが新京の馬車の鈴の音もワンノアゼムです。

さういへば又思ひ出します。奉天で湯川兄と二人で乗つた時の氣持も俳人詩人(自稱)の私ならば味へない情景でした。心ある人に御想像下さい。

鈴の音を聞く日の長し松の春

所謂「泥棒町」!此の言葉は(南滿北支が本場ださうです)皆さん御承知でせう。私も小説や詩の材料を得た爲に見學しました。その泥棒町にも色々あるさうです。つまり品目に依つて、ガイドの本間君より私の方がウツ手なんです。失禮ハハ、。

泥棒にあつた翌日探しに來

吉林!御承知でせう、緑林!譯からないですか、馬賊です。本場です。然し私はそんな事を調べに行つたのではないのです。いつか申上げました通り飄然渡満したのですけれどもその中にもアーケオロジストとして目的があつたのです。だからどうしても吉林へは行かねばなりません。

吉林は日本では云へば奈良か京都と云ふ所です。景勝の地で而かも寺の街!その日濱君とも約束してゐたのですが私と出野君は汽車に連れ仕方なく自動車で行つたのです。すると歸りの汽車で濱君に會ひ双方で責めたのでした。全く濱君に濟みませんでした。

此の日は出野君がガイドの譯でしたが同君も初めての事でありその上私よりも滿語が解らないのです。「あなたの御案内で!」なんて出野君も恐縮しながら笑つてゐました。

寺のある所山あり水もあり

奉天、安東に於ける各二日間、京城の一日半、私はまだく書く事が多いので安東では堤君が愛児を亡くして間もない時でセンチな私は何も云へないのです。オ悔を云ふ事が却つて先方を泣かせ自分も泣くばかりなので私は強ひてそれに觸れなかつたのです。そして却つて明朋を以てしたのでしたが然し堤君に特に奥さんにそれが判つたか恐らく誤解されはしなかつたか?私は心配しました。私はそれを辯明する丈の勇氣がない程それ程内氣なんです。

京城では十八年前に會つた矢澤君の奥様!その頃は子供もいないキレイな奥さんでした。昔を思ひ出して態々尾見君の宅へ先手を打つて私を訪ねて下さつたには恐縮しました。然し長い旅の疲れに私はその御好意に應へる丈の元氣がなかつたのです。遅れ馳せながら此處に御詫言旁々御禮を申上げます。

その夜のサケパーティーには私は多くの收穫を得ました。翌日案内をして呉れた伊藤君にも深く謝します。然し私にはもつとく仕事があつたのですがそれも果し得なかつたのです。と云ふのは當時樂浪、高麗の史跡を調査して歩いた自分を再檢討するのが目的だったのです。けれども身心の疲れと財布の疲れで瘦の山に入り乍ら空手て歸つたのでした。これが磯野兄にも御好意を無にした原因です。

十八年たつた一夜に子三人

旅行に寫眞機は附き物です。寫眞機なしに旅行するのは石輪なしに風呂に入るやうなものです。機械や石輪がなければ旅行が出来ない譯ではないんですけど垢

は落ちませんね。就中異境の旅には絶對的必要品です。所がそれがまた福するんですよ……詳しくは申しませんが。とも角軍事上や實際上からは撮らせないのが當然でせうけれども少し常軌を逸してゐます。旅行者は氣をつけねばなりません。それも禁止の表示が明かれば間違ないんですが印刷物やツーリストビュローで聞いた位では判りませんがね。

先程も申上げました通り旅行と寫眞機とは不可分のものでありながら而かも持つてゐる機械の爲に旅行を阻まれる事も異境では決して稀しくはないのです。私は入滿前證明書を持つてゐましたからいくらからラクでしたがそれでも……列車の中で調べられたり没収されたり仲々國境附近の寫眞機は氣をつけねばなりません。この地方を旅行する人達に特に御注意申し上げます。

寫す者が寫される者の仲間入り

五族協和、王道樂土、貴國では此の三つの言葉は彼の人達の常用です。私も大分食傷られました。

然し實際がホントウにさういふ氣分で努力してゐるんですから五族協和も樂土の建設も決して遠くはないでせう。

然し形に現れた物質的の建設があまりに急テムボな爲めこの事が却つて精神的方面の建設を妨げる一因となりはしないかと思はれる點も相當あるやうです。

兎も角我々は滿洲國の健全なる發達を祈りませう。

大海に流れて水の碧みあり

まだく書きたいんです。然し私は他の専門誌上で發表してゐますから同志の方は御覽下さい。こゝでは標題が北滿詩行といふ以上南滿や朝鮮の事は省きませう。五回に亘つて貴誌面を割愛して下さつた事を感謝します。又詳しくは別稿で御目にかゝります。(一一、一一、稿)

満洲の國新しき京哉

新京には電車がありませんよ。將來も敷設しないさうです。何故?そんな事は私に聞いて下さつても判りません。大體

の想像はつくでせうがね。質問者のあなただも御考へになれば判るでせう。

交通機關は自動車と馬車です。馬車は滿洲特有のものですが北滿と南滿は形は勿論總てが違ひます。私は某新聞に兩者を比較した繪(俳諧)を掲げましたら非常な賞賛を得ました。寫眞でも御目にかければ御解りでせうが。

ソノ馬車に乗つてホロ酔氣分で鈴の音を聞くのは夢の國のやうです。私はいつ迄もくそうしてゐたかつたのです。鈴と云へば蒙古を踏駝に乗つて聞いた鈴の音も忘れられない記憶の一つですが新京の馬車の鈴の音もワンノアゼムです。

さういへば又思ひ出します。奉天で湯川兄と二人で乗つた時の氣持も俳人詩人(自稱)の私ならば味へない情景でした。心ある人に御想像下さい。

鈴の音を聞く日の長し松の春

所謂「泥棒町」!此の言葉は(南滿北支が本場ださうです)皆さん御承知でせう。私も小説や詩の材料を得た爲に見學しました。その泥棒町にも色々あるさうです。つまり品目に依つて、ガイドの本間君より私の方がウツ手なんです。失禮ハハ、。

泥棒にあつた翌日探しに來

吉林!御承知でせう、緑林!譯からないですか、馬賊です。本場です。然し私はそんな事を調べに行つたのではないのです。いつか申上げました通り飄然渡満したのですけれどもその中にもアーケオロジストとして目的があつたのです。だからどうしても吉林へは行かねばなりません。

吉林は日本では云へば奈良か京都と云ふ所です。景勝の地で而かも寺の街!その日濱君とも約束してゐたのですが私と出野君は汽車に連れ仕方なく自動車で行つたのです。すると歸りの汽車で濱君に會ひ双方で責めたのでした。全く濱君に濟みませんでした。

此の日は出野君がガイドの譯でしたが同君も初めての事でありその上私よりも滿語が解らないのです。「あなたの御案内で!」なんて出野君も恐縮しながら笑つてゐました。

寺のある所山あり水もあり

る日清レヨン會社の社長でもある。去る年宮島氏は停年制を作りあげた。所が本年は自分の作った網にかゝつて仕舞つた。無理もない年々歳々人不同、歳の方は遠慮なく歩くのに停年制は山の中腹に歩かずに張つてあるのだから。

そこには但書がなかつたと見へ宮島氏は自分の網をくぐることを遺憾と思つた。この春重役を辞任せんとした。が非常時

は軍部のみの専有ではない。この際宮島氏は辭められては會社にとつて大打撃である。と八方から思い止まらせられた。

そこで宮島氏は詮方なく居るはる事となつたもの、世間からは賞與欲しさの居るはると思はれもやせん。かくては自分の本旨に反するとあつて半期六、七萬圓の賞與は之を全部社員職工に提供して仕舞つた。今後はや月手當二七〇圓のみ

會社からは一文も得ておなないといふ。私の所にもこんな重役が一人でもあるといふけれどもどうもねえ。

なる程後進の道を開くといふ理由から停年制も結構である。だがこの爲めに惜しむべき人を辭めさす事も多い。かと思ふと別に惜しからざる人を一度は辭めた形式をとつて囑託などの名で勤続する事もある。官吏の理想は恩給に達する年限を待つて新に民間に入る事だ。そうだがこれなんか全く欺官根性と言ふのだから。

母校も既に廿五年を過ぎた。が未だ卒業生は役人は高等官三等が最高であるらしい。重役は一人か二人に過ぎないらしい。それは學校が新しいのでバックに乏しい、反面には蠶絲業が人網などに押されて伸び悩んだ爲もあつたらう。なかには専門を捨て、他に轉向したものも相當の數に上る。が世襲ならでは重役となり金持となる事が困難とするならば只一つの方法がある。それは養子となる事である。専門學校でも出たからには眞逆

進んで貧乏人の養子となるものもなからう。如何に娘が別嬪だからと云ふて、「小娘三合あれば養子となる勿れ」など、諺があるけれど、そして妻の前こそ頭が上らないだらうが外に出てある間は金が顔をよくし金が口をきくと言ふて養子に見込まれる位だから當人自身も立派な者であるかも知れない。

我々同窓生の中でも養子に行つた人を

調べて見ると皆立派な方ばかりらしい。私達のやうに貧乏生活をしてゐるものはあるまい。然し奥さんは大に氣を付けて然るべしだ。大体腕のある養子諸君は内で謙讓な代りに第二號を持ちたがるもの

だ。重役にあれ社員にあれ少しく社會に認められるやうになると第二號を必要とする。私はこゝで其の理由やら議論はしない。イヤ出来なない。たゞ事實を指摘するだけである。

金があつて精力があつて家に歸つて威張る妻君でも持つてゐる養子の二號を有する事も首肯せらるゝ。

だから僕は妻や子供に何時もこう言ふのだ。「偉くなるよ外で飯を食ひ歸りは遅くなる。酒を飲んで身体を害ひ出張が多くてお前達にも會ふ事が少くなる。所が然らず、かく毎日歸つて一家團圓たり得るは誰の爲ぞや。不秀才にして偉くなり得ざる我輩の賜物だ」とね。

何等のバックを有する事のないサラリマンは全く一家陸しからざるを得ない。先づ自分の家を持ちそしてその土地を持つ事を得れば功成り名遂げたと見えてよい。

然るに一方に於ては如何に資本主義の世の中とは言へ信用錄でも見ると一人て數十の重役を兼ねてゐる者がある。口八丁手八丁の人であつても完全に其の任を爲し能ふ者ではない。私は今かゝる重役を戴き困惑の體験を味つてゐる。緊急の事があり如何にしても稟議を經、可否を決する場合ありともゲルゲル幾つもの會社を廻つて重役を捕ふこと頗る困難であつて事務停滯、好機逃逸は免かれな

い。そして失業者の多い世の中を益々困しめる。信用錄で見ると大川平三郎といふ人は六十五許りの會社に重役となつてゐる。

矢野恒太氏や小林一三氏が重役兼業の廢止を叫んでゐるのも無理はない。然し會社の經營は事業其物の性質より之を行ふ人に依るものであり其人の財力が會社の信用に大きな關係を持つ者である以上止むを得ざる理由もある。

これで頂いただけの原稿紙が漸く書き終へた。寄稿と言ふことがこんな事ではければ話は愈々八方に飛んで見せる。

千曲時報を顧る

一九三六年度

正木 章 三

- 一、蠶絲學と社會學の問題
- 二、第一面記事の問題
- 三、會費徵集の問題

一、の之は二月號の第一面どくだみ氏稿「草鞋後開」に端を發して、その後相次いで論じられた興味ある問題であつた。

三月號に、千枚漫語(高島氏)

全、科學者に矢を放つもの(鳥頭氏)

全、史汀餘稿(草野氏)

四月號に、草鞋後開(どくだみ氏) どのどくだみ氏の云ふところは「上田の卒業生はその學生時代に餘りに學究的である爲に、實社會に出て世事に疎くて役に立たない。だから學生時代にもつと他の役に立つ勉強や習業をせよ」と云ふのであつて、之に對して鳥頭氏の「科學者に矢を放つもの」と題する痛烈なる抗議文が出て、俄然時報の興味を高めて來たのである。

高島氏は専門學校令の第一條々文を引用して、學究的であらねばならぬ事及びそのやうな事必然と意義を説いて居る。一方草野氏は、どくだみ氏説を支持して「氏のやうな考へ方を一般學生がする事は本人の幸福は勿論、學校自体がよくない

昭和十一年桑畑統計

昭和十一年六月末現在に於ける桑畑段別は五六六、〇五七町八にして之を前年同期の段別に比すれば一六、二七八町八(三分)の減少を示せり。而して右の如く一万余千餘町歩の減少を見たるは主として桑園整理の結果に依るもの、如し。

根刈	四〇九、三五四町五	(七割二分)
中刈	八七、九六〇、六	(一割五分)
高刈	二五、八七〇、三	(五分)
立通	四二、八七二、四	(八分)

り先輩を導くのに極めて樂であると思ふ」と述べて賛否に別れて面白くなつて來た。ところが四月號になると、提案者どくだみ氏は、遠い昔を偲ぶどくだみ氏のセンナな愚痴を並べて「僕は云ひ過ぎたかも知れない」と折れて仕舞つたのであつて之の問題は「千曲時報がソロソロ上田のニュースと、同窓生の死んだ通

知と、先生方の御感想ばかりだつた城を脱し、かゝつて來た」と云ふどくだみ氏の結語の如く時報への關心を高めた功を残して一先づ終つたのである。

之の問題は千餘名の同窓生の等しく興味を持つた問題であつたと思ふ。そして結果としては三月號高島氏の論ずる所に同感であつた事と思ふ。

學生が在學中に、専心學問すると云ふ事は最も望ましい事なのであつて、學問の内容に關して教授の良不良又その教授法の如何は自らの問題で無ければならぬのである。従つてどくだみ氏の意見は學校を出た若い卒業生達に云はる可きであつて、「世の中に出たら各自の環境に従つてその新しい生活基礎を造る可く多く讀み、多く聞き、多く交はり、多く語り、社會人としての勉強をせよ」と説く可きであつたと思ふ。そして學校當局に向つては學生指導方法の検討を要請す可きものであつたと思ふ。

二、に就いて第一面記事の問題は、編輯氏の嘆く程「情ないもの」とは思はれ又之を栽培地別に分れば、

本 畑	五一四、九九六町〇	(九割一分)
其他の畑	三四、〇九三、七	(六分)
其 他	一六、九六八、一	(三分)

尙最近五箇年間に於ける桑畑段別を掲ぐれば左の如し。

昭和六年	六八二、九〇二町八
昭和七年	六五二、五一四、二
昭和八年	六四〇、一七八、〇
昭和九年	六二三、〇〇〇、一
昭和十年	五八二、三三六、六
昭和十一年	五六六、〇五七、八

(昭和十一年十一月廿七日農林大臣官房統計課發表)

ない。更に之の際、菊版に變更する事を改めて問題にして欲しいと思ふ。新聞紙法による保證金を積むとの事であるが、尙更良い機會であると思ふ。編輯者側にて菊版小冊子にするに就いて見積書を用意して全會員に時報紙上で詢れば良いと思ふ。

次に一面記事の欠乏は時報の意義を、もつと明白に示して、一ボビュラーな蠶絲業關係の研究調査に對しても編輯部から適當な出題するの、一方法であると思ふ。或は會員中にて夫々の關係する機關に於て講演に又誌上に發表された研究調査報告の中から編輯部にて適當のもの

を抄録發表する事も一方法であらうし、若し出来なければ仕事の方を會員に依頼しても良いと思ふ。

例へば此處にAなる研究項目を取り上げて、之に就いて研究調査して居る會員の報告を統一發表する事も興深いと思ふ。

然し原稿を書くのは良き編輯者では無く、原稿を書かせるのが良き編輯者なのである事を忘れてはならないのであつて之の點に至ると會員諸氏の時報への關心を高め興味を呼ぶ事から構はられなければならないのである。要するに編輯方針の要領大綱に就いて再考を促す事になるのである。

三、は會費徵集の件である。内田百閒氏によれば、斯うした事は成る可くそつとして控へるに依るのであつてガヤ／＼騒ぎ立てると却つて自分の立場を窮地に追ひ込む事になるのだ相である。

「何故同窓會費は納めなければならぬか」と云ふ初めの問題に溯つて、同窓會本部の人々に解説の勢を願はねばならぬと思ふ。徵集した金は斯く消費し、斯く残し、斯く積み立て、居る事を決算報告の形式で無く會員に説明して貰へば良いと思ふ。

次にその徵集方法として(万一集金率が年々減少する傾向があるならば)その集金成績を向上させる爲の具體的方法が講じられなければならぬのであつて、折人氏の説も何れも獨身の戯言では無く一方法として實行の可能性あるものと考へる。

以上本年度を送るに際して思ひ浮んだ三點に就いて意見を附加して再述した見たいのである。

上田便り

第十四師團對抗演習

十一月十三日迄二週間に亘り上田市を中心に第十四師團對抗演習が行はれた。...

菅平シール新製所温泉小規模

菅平シール新製所温泉小規模。既報の菅平シール、新製所温泉小規模の處十一月八日市内各警署商へ到着...

上田の體育祭

上田の體育祭。上中の提唱で十一月三日の明治節拜賀式終了後午前十一時より...

菅平シール新製所温泉小規模

菅平シール新製所温泉小規模。既報の菅平シール、新製所温泉小規模の處十一月八日市内各警署商へ到着...

原産種配布

原産種配布。蠶取上田支場本年度配布の原産種配布に検査は十一月十日頃完了...

上田の恵比壽講大當り

上田の恵比壽講大當り。上田の恵比壽講大當りは十一月十九、二十日の兩日に...

青年學校生徒聯合演習

青年學校生徒聯合演習。師團演習の後をうけて東信一市五郡の第二回青年學校...

善行場擴張地均開始

善行場擴張地均開始。陸軍上田飛行場の擴張三万坪の買収完了したので十一月...

善行場擴張地均開始

善行場擴張地均開始。陸軍上田飛行場の擴張三万坪の買収完了したので十一月...

スキール車増設

スキール車増設。省線を二本増設し温泉は午前四時五分より四本の不定期運轉...

スキール車増設

スキール車増設。省線を二本増設し温泉は午前四時五分より四本の不定期運轉...

スキール車増設

スキール車増設。省線を二本増設し温泉は午前四時五分より四本の不定期運轉...

上田工場建築工事進む

上田工場建築工事進む。千曲河畔に喰止めた。平均値は春五圓廿六錢...

上田工場建築工事進む

上田工場建築工事進む。千曲河畔に喰止めた。平均値は春五圓廿六錢...

上田工場建築工事進む

上田工場建築工事進む。千曲河畔に喰止めた。平均値は春五圓廿六錢...

母校ニユース

圖書祭 十一月二日午後一時半より上田圖書館に於て圖書祭舉行され本校より生徒代表八名参列す。祭典次第は一同着席(開式)修殿、降神、獻饌、祝詞、拜禮撤禮、閉扉、閉式、記念講演(針塚校長)直會一同退席にて終了した。

明治節と體育祭 十一月三日午前九時半奉安殿前に於て全校職員生徒参列明治節式、式後校庭に於て体操祭の豫行をなし十時半校旗を先頭に市營球場に向ひ同所に於て十一時より四十分互り行はれた体操祭に参加した。

衛生講話 十一月五日午後一時十分より約二時間第四教室に於て校醫藤博士より衛生講話があり學生全部及職員有志が聴講した。

旅團對抗演習見學 十月三十一日より二週間に互り舉行された第十四師團演習

の旅團對抗の拂曉戦が十一月十日朝鹽田平に於て舉行されるので全校生徒午前三時半出發、衝突決定地東田村横山高地に至りたるも急に陣地變更されたる爲め觀戰充分ならず午前九時歸校した。從つて當日の授業は休講となつた。

殖民講話 本校三年生の學科課目の一つ不定期に講義を受ける事となつてゐる殖民講話は拓務次官男爵稻田昌植氏を講師として第十教室に於て十一月十七日午後一時より四時迄、十八日午前九時より午後二時迄行はれた。

高松宮殿下御台臨 海軍大學校生徒の御資格を以て同校職員生徒二十餘名と共に十一月二十日御入信の高松宮殿下は特別の恩召を以つて二十二日午前十一時二十分待從林中佐を從へられ近藤長野縣知事の御案内にて本校に御台臨あらせられ針塚校長の御説明にて登壇、製絲、紡織化學の順に御視察を賜り御進食を取らせられ零時五十分御歸還遊ばされた。全校

入學案内

- 一、募集人員 養蠶科、製絲科、絹紡織科、通計約百名
二、出願期日 試驗檢定 一月十一日より三月十五日迄
無試驗檢定 一月十一日より一月卅一日迄
三、試驗科目 數學(代數、平面幾何) 英語(英文和譯)
四、試驗期日 三月廿五日(午前學科、午後體檢格檢査、口頭試問)
五、試驗場所 上田(本校) 東京(外國語學校) 名古屋(愛知縣廳) 京都(高等工藝學校) 福島(高等商業學校) 福岡(九州帝大農學部)
六、入學案内書入用者は郵券二錢封入本校教務課宛申込次第送附す
製絲教養養成科入學案内
一、募集人員 約二十名
二、出願資格 一、高等女學校卒業業者又は之れに同等の學力を有す
二、高等小學校卒業後一箇年以上製絲業に従事し其の成績優秀なるもの
三、出願期日 一月十一日より三月廿五日迄
四、試驗科目 數學(算術、代數、平面幾何) 國語(作文を含む)
五、試驗期日 三月廿六日
六、試驗場所 上田(本校)
七、入學志願者心得入用者は二錢切手封入本校教務課宛申込まれた

上田蠶絲專門學校

職員生徒及當日代議員會に出席せる卒業生は十時四十分及び十二時三十分より校門前に並列し奉迎及び奉送申上げた。

横須賀軍港見學 各科三年生有志三十名は内田生徒主事、谷中佐、石井中尉に引率され十一月廿二日午前一時廿六分上田驛發旅行の途に登り午前九時横須賀著海軍工廠、軍艦、追濱飛行場、三笠見學

廿三日は午前中自由行動とし鎌倉、江之島見學、午後一時より上野公園内科學博物館見學、廿四日は午前八時半より三時間に互り赤羽陸軍被服廠を見學し午後五時四十分上野驛發午後十時四十分上田著にて歸校した。

校長訓話 針塚校長は十一月廿五日〇時四十分より十五分に互り第四教室に於て職員生徒に對し高松宮殿下御台臨の御模様を物語り同時に殿下の有難き御恩召に對し報ひ奉る様努力せねばならぬと訓へられた。

談話會 十一月中の談話會に於ける講師並に演題は次の如くである。例に依り毎金曜日後四時より第十一教室に於て開催された。

- 十一月六日(製絲紡織) 窪田 潤
一、短纖維試驗に就て 目崎 三郎
二、織物の話 功
十一月十三日(養蠶) 茅野 功
一、桑蠶のアミラーゼ作用に就て
二、熱に依る細胞構造の變化 山口定次郎
十一月二十七日(化學) 宮下 丈夫
一、窒素工業 須田 圭二
二、天秤の秤量法 須田 圭二
西川晋氏の入營 母校養蠶科園場部副手西川晋氏(蠶廿三)は今回國家の干城に選ばれ東京市目黒區上目黒八丁目近衛聯軍聯隊に輻重兵特務兵として入營されることとなり十一月廿七日附を以て退職、廿八日十時廿六分上田驛發にて母校職員同級生多數に見送られ出發した。武運長久を祈る。

甘茶美術展覽會 恒例の甘茶美術展覽會は十一月廿五日より三十日迄蠶室に於

て舉行された。出品物は母校職員生徒の餘技になる書三點、日本畫及洋畫廿三點、手藝品四點、彫刻五點、寫眞六十三點に計九十八點に達した。寫眞は例に依つて多數、技愈々巧んで玄人藝、油繪は殆んど無く水彩畫も少く西洋畫は年々減少と云ふ處、本年は始めて彫刻(何れも木彫)が加つた。

(書) 濱田 浩 清水 良一 關 かほる
(日本畫及洋畫) 石倉新十郎(雨中の戦陣、鹿外の和樂、高原の夏村、山藪、山峽の夏村、窓外の秋色、山氣清涼、消々漆々、暮靄) 武井仙太郎(廢墟の夕、秋の郊外) 井上柳梧(早春、秋、櫻桃、園の花) 金子英雄(秋の風景二種) 山口定次郎(風景習作、若い彼) 小林敏(静物) 赤尾文顯(風景、晚秋、花) 三原田今朝男(風景)

(手藝品) 藤田たけ子(騎士レース) 井上柳梧、三戸部滿(柞蠶ハンドバック) 井上柳梧、山越さと(柞蠶紙入) 井上柳梧、金井みつむ(楓蠶ハンドバック)

(彫刻) 市原政治(彫刻) 山岸常信(飾鉢、アツクエンド、一茶、子守)
(寫眞) 井上柳梧(雪晴れて、雲湧く山、雪溪、穂高、山又山) 阿形輝司(枯木立) 倉澤美徳(淺間山) 野口新太郎(郊外小景、流水、林の中の家) 町田博(高原、春の行樂、秋の朝、郷里の朝、晩秋、夕ヤ) 茅野功(潤澤の朝霧、ジャングル、穂高よりの展望、水柱のある風景、美ヶ原風景、ヒクニック) 宮坂收(高原の秋、花、無題、光頭トリオ、白樺) 平尾孝平(シニアル、櫛、杓子岳) 堀口稻三(雲表の劍岳、山頂目指して、處女雪踏んで) 小口宗久(スケッチ、題、遠望) 六川忠一郎(山の家、妹、荒木君) 阿形一(溶岩、岩頭) 辻義男(姥捨の印象、無題、さかさ翁) 福永雄三(フランス人

形、牧場風景) 郷原正直(笑顔) 北島正生(桐、少女) 池内眞吾(パレーポー、港の朝、陽ざしを求めて、田代湖畔) 松浦彰義(スマイラン) 小木會眞佐雄(小槍と西鎌尾根、鹿島鎗岳を望む、立山本峯、晩秋の八ヶ岳、頂上近し、尾根に立ちて) 岡卓郎(温室にて) 石松博(構成美) 齋藤利雄(初秋)

柴田尚氏新任 物理學實驗室に勤務せられし業手柴田尚氏は今回職員に昇格せられ十一月三十日附を以て副手に任ぜられ物理學實驗室勤務を命ぜられた。同氏は昭和十年の長野縣丸子農商學校出身である。

叙任辭令 教授 金子 英雄
柴田高等官三等(十一月二日) 金子 英雄
彼從五位(十一月十六日) 西川 晋
願ニ依り副手ヲ免ス(十一月廿七日) 業手 柴田 尚
副手ヲ命ス 物理實驗室勤務ヲ命ス(十一月三十日)
卒業生之部 公立實業學校長 林 新一
八級停下賜(十月三十一日) 今井 又藏
山形縣農林技師 今井 又藏
地方農林技師ニ任ス 高等官七等ヲ以テ待遇セラル
山形縣農林技師ニ補ス (以上十一月二十八日)

御挨拶 謹啓寒氣日増に相加り申候折柄各位皆様御健勝之段奉慶賀候陳者私儀今回御蔭様にて物理實驗室副手として勤務致す事に相成候間何卒今後共倍舊の御指導御鞭撻賜度伏而奉懇願候先は乍略儀以誌上御挨拶申述度如斯御座候 敬具 柴田 尚

昭和拾壹年拾壹月拾拾日 物理實驗室 柴田 尚

校友會ニユース

野球クラスマッチ 十月廿一日より十一月十日に亘りて選手を除きたる野球クラスマッチを行ふ。左の戦績にて紡三優勝した。

- 一回戦 紡三 12 対 1 紡二
二回戦 紡二 11 対 0 紡一
三回戦 紡一 6 対 15 紡三
優勝戦 紡二 2 対 0 紡三

- 一回戦 紡三 11 対 0 紡二
二回戦 紡二 11 対 0 紡一
三回戦 紡一 6 対 15 紡三
優勝戦 紡二 2 対 0 紡三

庭球クラスマッチ 庭球部では十月下旬より十一月初旬にかけてクラスマッチを行ひ(選手を除く)左の戦績にて紡二優勝した。但し各クラス三組、ゲーム三回とし優勝戦のみ五回とす。

- 一回戦 紡二 2 対 1 紡三
二回戦 紡一 2 対 1 紡二
優勝戦 紡二 0 対 2 紡一

秋季演奏會 音楽部では十一月八日午後六時より講堂に於て秋季演奏會を開催したがプログラム及出演者は左の如くである。

- 第一部
一、ハルモニカ合奏... 指揮 石松
二、合奏... 指揮 市村
(君が代行進曲)吉本曲
三、二年生合奏... 日幡、阿形、宇田
(思川の曲)
四、尺八合奏(收穫の野)... 都山流一同
五、アッコージオン二重奏... 石松、日幡
六、一年生合奏... 一年生一同
七、尺八合奏(夕空)... 都山流一同
八、合奏... 指揮 石松
九、琴連弾(飛躍其他)... 間瀬社中
番外、合奏... 指揮 齋藤
(流行歌接續曲)齋藤編
第二部
一、マンドリン二重奏... 齋藤、日幡
二、(船頭可愛いや)
三、三曲合奏(千鳥の曲)... 琴古流一同
四、アッコージオン独奏... 石松
五、(夢のタンゴ)
六、(スベニール)
七、(森の銀治屋)
八、ハルモニカ合奏... 指揮 石松
九、ハルモニカ合奏... 指揮 市村
(天國と地獄)オフエンパツハ作
(祝婚行進曲)メンデルスゾーン作
出演者
洋楽部
土生 安部 富士 宇田 土屋 都筑
石松 丸山 宮田 藤入 武井 柴田
日幡 石松 市村 阿形 箕輪 齋藤
邦楽部
(都山流) 矢澤 福木 玉田 濱田
原口 内馬 小幡 金丸 進野 矢澤
橋本 (琴古流) 本居 和田
(特別出演) 間瀬雅静社中
卓球クラスマッチ 卓球部では十一月九日より十八日迄生徒控室に於てクラスマッチを行ひ(選手を除く)左の戦績にて紡一A優勝せり。

- 一回戦 紡三 A 3 対 0 紡二 B
二回戦 紡二 B 3 対 0 紡一 A
三回戦 紡一 A 3 対 0 紡三 B
優勝戦(五回戦) 紡一 A 0 対 3 紡三 B
T 都 筑 0 対 3 西川
2 宇 田 2 対 3 青山
M 市 川 1 対 3 山田
4 伊 比 不戦 重田
L 清 水 不戦 長谷川
柔道クラスマッチ 柔道部では十一月十四日道場に於て岡部長並に内田生徒主事御出席の裡に校内クラスマッチを舉行し(選手を除く)左の如き戦績にて前年の覇者紡二は再び優勝した。

- 一回戦 紡二 0 対 2 紡一
二回戦 紡一 4 対 1 紡二
優勝戦 紡一 0 対 1 紡二
一回戦 紡二 2 対 0 紡一
二回戦 紡一 3 対 0 紡二
優勝戦 紡一 2 対 0 紡二
一回戦 紡一 1 対 0 紡二
二回戦 紡二 1 対 0 紡一
三回戦 紡二 1 対 0 紡一
優勝戦 紡二 1 対 0 紡一
一回戦 紡一 2 対 0 紡二
二回戦 紡二 2 対 0 紡一
三回戦 紡一 2 対 0 紡二
優勝戦 紡一 2 対 0 紡二
一回戦 紡一 1 対 0 紡二
二回戦 紡二 1 対 0 紡一
三回戦 紡二 1 対 0 紡一
優勝戦 紡二 1 対 0 紡一

- 先鋒 明治 本 校
○青 山 長 井
○西 野 白 倉
○横 澤 古 平
○土 谷 堀 口
○野 村 渡 邊
○齋 藤 小 山
○石 川 兒 玉
○小 辻 有 川
○副 野 村 橋
○大 野 明 千 吉
○新 野 明 千 吉
高女對養蠶科職員庭球戦 養蠶科職員は十一月廿一日上田高女コートに於て同校職員と庭球試合を行ひ左記の成績にて引分となつた。なほ風強かりし爲め勝抜きの出來ざるは残念の極みであつた。

本會記事

本會日誌

十一月十一日 代議員會開催に付各支會より出席方依頼す。十一月十四日 代議員會(參與方本會役員)へ通知す。十一月十九日 代議員會開催に付準備打合せを行ふ。十一月二十一日 午後一時より監事會開

第三回七久里會開催の二三

「轉ばす神に起す神」つて言葉があるが全くそんな考へ方で世間を見れば成程万更ウツでもなきそだ。昨年と一昨年は蠶絲業界ではどうやら「轉ばす神」の方の勢力が強かつたらしい。所が今年には蠶絲業界と言はず一般農業界と言はず工業商業界、先づ大體「起すの神」の力が大きかつたと言つて差支あるまい。

蠶專上中會

十一月十七日午後五時より市内福神町觀水亭に於て蠶專上中會を開催した。出席者は職員十五名、學生廿九名に上中職員五氏の参加を得て未だ曾て無き盛會を極めた。

蠶絲學雜誌九ノ二原稿募集

最近九ノ一蠶絲學雜誌を御送りした筈ですが、直ちに九ノ二の編輯に着手しました。御投稿を歓迎いたします。尙勝手な御願ひですが論文は簡潔にし又圖版で間に合ふものはなるべく寫眞にせず願ひます。又報文の他、調査、參考資料、抄録等でも大歓迎です。

一、締切 大々至急 上田蠶絲專門學校内蠶絲學雜誌編輯幹事 山口宛

義宮様御乳人福島夫人大任を果し宮中を退出す

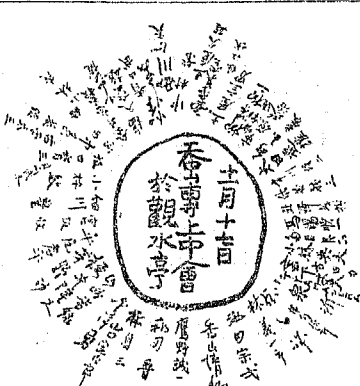
第二皇子義宮正仁親王殿下の御乳人本縣大町出身福島治さん宮様の初の御誕生日十一月二十八日を前に大任を果して御暇を賜り十四日宮中を退出、十八日歸郷せられたが右に付き夫君福岡縣技術師福島綱治郎氏より十一月廿二日付林教授宛左の書信ありたり。

第五回蠶學談話會の記

去る十一月二十三日(前日は千曲會代議員會)恒例により秋期の蠶學談話會を開催した。プログラムは次の通りである。会場 上田蠶絲專門學校病理學教室

日本蠶絲學會の記

昭和十一年度秋の日本蠶絲學會は去る十一月廿八日午後〇時半から東京有樂町の蠶絲會館で開催された。講演者十九名中千曲會員は五名であつた。參會者二百餘名が蠶絲業に關係する總ての方面の人々が集まつたが、就中東京蠶絲の學生諸子の多かつた事、その熱心な聴講振りに感服せられた。又紅二點、中國婦人も交つてゐた。講演の内容目次を記して見やう。



- 一、桑曲取苗木の發根に就て... 東京高等蠶絲學校 飯島 肇
二、農病毒の二、三性狀に就て... 東京高等蠶絲學校 渡邊 靜夫
三、家蠶繭腺の發生に就て... 東京帝國大學農學部 布目 順郎
四、一化性蠶兒の脱皮不能に就て... 埼玉縣蠶業試驗場 河野 幹雄
五、桑樹の生育に及ぶ水素イオン濃度の影響に就て... 埼玉縣蠶業試驗場 荒瀬 正平
六、家蠶幼蟲の頭蓋剛毛の排列に就て... 埼玉縣蠶業試驗場 黒澤 益雄
七、汚穢菌に就ての一考察... 片倉蠶業試驗場 小針 三郎
八、生絲害虫の種類に依る切斷面に關する研究... 横濱生絲検査所 末次 幸雄
九、インクライン、ブレン、セリグラフに就て... 横濱生絲検査所 藤田 正
一〇、振動及音波による蛆害防除に就て... 農事試験所 八木 誠政
一一、十四中及廿一中生絲を基本織度とずる合絲の織度偏差に就て... 絹業試験所 井野 正夫
一二、吸濕量の多少と絹絲の切斷仕事量... 絹業試験所 鈴木 三郎
一三、軟弱病豫防成分に就て... 長野縣蠶業試驗場 中島 茂
一四、育蠶上に於ける變温と均一温度との比較... 上田蠶絲專門學校 前生 俊興
一五、熱處理による桑葉澱粉の變化... 上田蠶絲專門學校 山口定次郎
一六、絹絲染斑に關する一考察... 蠶業試験場 森山 二郎
一七、乾燥中に於ける絹絲物の自然發火に就て... 蠶業試験場 佐藤 輝雄
一八、蠶品種并一二齡飼育條件と三眠蠶發生との關係... 長野縣蠶業試驗場 金崎 眞英
一九、家蠶腸病多角體と病原との關係... 東京帝國大學農學部 石森 直人

第十回代議會議事抄録

代議會議事抄録

十一月廿二日講堂に於て第十回代議會議事。出席者は三十七名に達し午前九時五十分開會。議長高島秀男氏(東京)を指名す。高島氏登壇議長就任の挨拶をなし議長席に就く。本日は午前中は高松宮殿下御臨遊はされるに付き校長及校内理事が出席出来ぬかも知れぬので協議の形式とし午後は本會議を開いて決議する事となつた。午前中十分協同會を休會とし母校職員生徒代表員一同校門脇に並列御台階の高松宮殿下を奉迎申上り。殿下は十一時十分御台階退遊。十一時三十分協同會再開。臨時講堂に於て朝食、少憩中零時五十分殿下御臨遊遊ばされ御台階の時と同様に御奉送申上げた。午後一時再會協同會を本會議に変更す。

の上下議員をして出席せしめ度右趣旨に依り本件を提出したる所以なり。之に對し群馬橋本氏の賛成意見、倉澤理事より「それは却つて決議の時意外に紛糾を來す恐れあり。各支會毎に事情の異なる立場にあつて論議されては決定困難である。豫算は代議會議の席上提出され承認されるのが普通である。静岡岸氏より「其の意見は代議員を無視するものである。千曲會々則から改正してかゝらねばならぬ。東京久保田氏より「代議員制を無視することゝなる」との反對意見あり。倉澤理事より「豫算の編成上從來と著しき變更ある場合は豫め支會に通知し了解を求めた程度で了承して貰ひ度い」と提議し可決となる。

昭和三年度本會議入出決算並に財産目録承認の件(本會) 林理事より左の如く内容説明あり(別表参照)収入は豫算に比し通常會費、時報費、報告料と雑收の時報生賣却代其他が多少増加し四百圓の増収となつた。支出は豫算に比し一圓廿二銭を減じたのみで豫備費迄使用し盡した。基本金は廿五周年記念事業へ六千圓、通常會費に七百圓使用し九年十一月の代議會議の決議に基き活動資金四百九十四圓を支出、合計七千二百圓を使用し現在三萬三千圓ある。別途積立金は終身會費に名増加し百廿四名、之は成高と利子を五十五圓ある。海外留學資金は特別附附に依つたもので昨年繰越に利子が加り之れに依つた。研究獎勵金は通常會計に研究費なる種目あり之を其の年度に使用しなければ積立て置くと云ふ代議員の決議に基き積立てたものである。之れに對し飯島理事より十年度決算報告、財産目録及び領收證に付き厳重に監査せる處間違無承認せる旨監査報告があつた。

母校創立廿五周年記念事業費收支決算の件(本會) 林理事より(別表参照)「記念事業費は不完全な豫算であつたので實際やつて見ると可成の相違を生じた。之は本来ならば正式に追加豫算を請求するのであるが急を要することであつたので其儘實行した。承認して貰ひ度い。収入は基本金より六千圓と通常會計剩餘金より三ヶ年分千五百圓繰入れ會費剩餘金より一萬三千圓が一萬七千圓に増加した。寄附金は豫算になつたのが六百九十圓あつた。その内會員外寄附金は那是製絲百圓外二十人である。母校職員寄附は關係の上である。學生からも寄附があつた。雑収入として利子及び記念品の風呂敷品品の賣上代収入があつた。支出の内記念品とは風呂敷である。千曲時報は廿五周年前後の記事が厚いものとなつたので豫算にはなかつたが二百圓支出した。斯くて差引四千五百三十圓剩餘金を生じた」との説明あつて原案通り承認し可決す。

千曲會情部設置に關する件(福島) (理由)人事の移動對策は迅速機敏を必要とする所なるを以て千曲會は情報部を設け千曲會報以外の人事に關する移動其他人事上必要な各方面の事項を速報して母校人事網の完全を期する機關とせられ度き事。 提出者福島支會に代りて倉澤理事題目及理由を朗讀す。

三、當會と本部との聯絡緊密化に關する件(福島) (理由)最近當會の發展に伴ひ本部との聯絡を一層緊密にする必要あることを痛感しつゝあり。就ては其の方法に付き本部にて講究を望む。 之も提出者福島支會の出席なき故倉澤理事滿洲支會よりの書面を左の如く朗讀す。

一時三十分早川先生記念品贈呈式を舉行す。早川先生入場され蒲生理事早川先生記念品贈呈式を開く旨を宣し早川先生登壇、蒲生理事長別項の如き感謝狀を朗讀し目録(金屏風一雙)を贈呈す。早川先生壇上より謝辭を述べられ一時四十分閉會す。記念品贈呈式終了後直ちに講堂前に於て校長早川先生を加へ全員の記念撮影をなす。二時より本會議再開。閉會に先立ち針塚會長より御挨拶があり出席代議員の勞を備はれ「母校に對する要望あればそれは愛校心の發露と考へる故可及的それに副ふ様盡力する」と云はれた。斯して午後六時に近き頃豫定議事を終了し議長は一言挨拶を述べて自席に退き蒲生理事長登壇、閉會の辭を述べ併せて代議員の骨折を感謝し決議事項の履行を約し意義ある代議會議の幕を閉じた。

一、編輯顧問を母校教授に依頼し雜誌の原稿は各専門教授の校閱を受ける事。二、定期發行とし年四回とする。三、現在の歐文抄録を稍々長くし外國へは雜誌全文を送る事。四、現在の編輯項目に加ふるに綜説を以てし科學綜説と實用綜説と兩者を適宜加ふる事。五、印刷形式を讀み易き型にする事。六、會費は年二圓位とする事。七、實行方法は本部に一任する事。之に對し蒲生理事より本部の改善方法を説明する。蠶絲學雜誌改善は數年來の懸案にて内容及經營の改善に努力して來た。本年三月評議員會を開き經營方針を大體決定した。それは從來會費一圓にて本會より四百圓乃至六百圓補助してゐたものを生絲の國社猪坂直一氏に委託經營させ編輯は本會でやり年二圓の會費とし補助を廢止すると云ふ様に變更すると云ふのである。之は林、猪坂兩氏の交渉に依り近く實現されると思ふ。又編輯委員を設け母校と連絡を保つ様にする豫定である。北信の案の専門教授の校閱を求める及び定期發行は全面的に結構だと思ふ。之に對し議長は「日本蠶絲學會に入

會してゐる者は蠶絲學雜誌の必要なしと思ふが」と問へば北信勝又氏より「母校の旗印として是非必要である。如何なる犠牲を拂つても自分の雜誌を持たねばならぬ」と答へ原案の如く可決す。 本會發行の冊子に關する件(茨城) 茨城中會根氏より次の提出理由説明あり「現在の千曲時報は餘りに貧弱である。以前の同窓會報の様な厚な冊子にして欲しい。經費が足りなければ隔月發行でよい。」 之に對し林理事より次の如く本部案の説明あり「千曲時報を冊子にすることに就ては昨年の代議會議に於て議長高島氏より希望あり、速かに實現する様に決議されてゐる。それで今回苦しい豫算の中より増額を行ひ冊子型にする様に豫算を組み込んだ。之は豫算審議の時中上げる積りで報告した次第である。茨城の希望の全部には副はないかも知れぬがそれに大略近くなつた譯であるから之の邊で了承して貰ひ度い」と云ひ本部案の如く決定す。

人事に關し連絡統制を圖る件(福島) (理由)母校卒業生の人事に關しては往々不徹底の感あるは遺憾とする所なり。依て各科に於ける人事の連絡統制を計り之れが刷新徹底を期せんが爲め母校に人事部設置の件を要請する事。 其の當時は未だ提出者福島支會の出席無き故倉澤理事代りて題目及理由を朗讀し更に加へて「昨年の代議會議に於て山形北陸より人事専任職員設置の提案あり本部に於ては母校當局に職員中より人事専任職員を出して貰ふ様要請してある」と本部の方策を説明し北信勝又氏より「人事部署の可能ありや」と質問し蒲生理事より「西ヶ原には出来てゐる。現に人事の統制機關設置を當局

に陳情し校長も了とされ準備進行中である。然し先日全國農業專門學校長會議で校長が聞いて來られたのでは何處にも表立つて人事部を設置してゐる學校は無いとの事であつた。故に出來るかどうか譯らぬがそんな名稱は宛に角内交渉は各科でやるが文書等は一個所て集めてやる如き統制機關は作つて貰へると思ふ」と答へ北信勝又氏より「私が上田に居て母校出身教授の狀態を見るに非常に多忙である。故に實質的の人事課と同様の機關を作る事は急務である。東京八木氏より「参考迄に文理大の方法を述べらる。文理大及び高師に一名宛教授が幹事と云ふ名稱で幹事室に居り一人は物理、一人は數學を一週一時間、それらもどうもよいと云ふ程度の學科を擔當するのみで學長と各科の連絡を計り就職上一切の仕事に携はる。就職に就ては書込用紙がありそれに書込んで幹事に提出する様になつてゐる」と賛成意見あり結局議長より「人事専任職員を急設設置する様當局に要望することゝし實行方法として陳情委員を擧げて校長にお願ひする」とを諮り万場の賛成を得て中澤忠、栗林悦、猪坂直一、櫻井隆夫、吉田榮治の五氏を陳情委員に指名す。

前略 陳者今秋代議會議議題として年延引別紙の通り提案任候。會議には當會より出席不可能と存候間誠に乍勝手貴方にて適宜上程被下度候。 最近會員増加の趨勢有之候も一面會員統制の必要あり又母校よりの滿洲向候補者選擧上重要仕度點もありその緊密化を會員一致要望致し居り候。而て此際

兵庫松野氏より次の如き提出理由の説明あり「從來豫算並に決算書類は代議員會開催の席上に於て提出せられたるを以て其の趣旨は一般會員に徹底せしむるを以てが質疑意見登答等も殆んど代議員のみに限られ會員の總意と認め難き感あるを以て豫算並に決算書類は代議員會開催前各支會に配付され各支會に於て充分審議し該書類に對する質疑意見登答等を取纏め

の上下議員をして出席せしめ度右趣旨に依り本件を提出したる所以なり。之に對し群馬橋本氏の賛成意見、倉澤理事より「それは却つて決議の時意外に紛糾を來す恐れあり。各支會毎に事情の異なる立場にあつて論議されては決定困難である。豫算は代議會議の席上提出され承認されるのが普通である。静岡岸氏より「其の意見は代議員を無視するものである。千曲會々則から改正してかゝらねばならぬ。東京久保田氏より「代議員制を無視することゝなる」との反對意見あり。倉澤理事より「豫算の編成上從來と著しき變更ある場合は豫め支會に通知し了解を求めた程度で了承して貰ひ度い」と提議し可決となる。

昭和三年度本會議入出決算並に財産目録承認の件(本會) 林理事より左の如く内容説明あり(別表参照)収入は豫算に比し通常會費、時報費、報告料と雑收の時報生賣却代其他が多少増加し四百圓の増収となつた。支出は豫算に比し一圓廿二銭を減じたのみで豫備費迄使用し盡した。基本金は廿五周年記念事業へ六千圓、通常會費に七百圓使用し九年十一月の代議會議の決議に基き活動資金四百九十四圓を支出、合計七千二百圓を使用し現在三萬三千圓ある。別途積立金は終身會費に名増加し百廿四名、之は成高と利子を五十五圓ある。海外留學資金は特別附附に依つたもので昨年繰越に利子が加り之れに依つた。研究獎勵金は通常會計に研究費なる種目あり之を其の年度に使用しなければ積立て置くと云ふ代議員の決議に基き積立てたものである。之れに對し飯島理事より十年度決算報告、財産目録及び領收證に付き厳重に監査せる處間違無承認せる旨監査報告があつた。

母校創立廿五周年記念事業費收支決算の件(本會) 林理事より(別表参照)「記念事業費は不完全な豫算であつたので實際やつて見ると可成の相違を生じた。之は本来ならば正式に追加豫算を請求するのであるが急を要することであつたので其儘實行した。承認して貰ひ度い。収入は基本金より六千圓と通常會計剩餘金より三ヶ年分千五百圓繰入れ會費剩餘金より一萬三千圓が一萬七千圓に増加した。寄附金は豫算になつたのが六百九十圓あつた。その内會員外寄附金は那是製絲百圓外二十人である。母校職員寄附は關係の上である。學生からも寄附があつた。雑収入として利子及び記念品の風呂敷品品の賣上代収入があつた。支出の内記念品とは風呂敷である。千曲時報は廿五周年前後の記事が厚いものとなつたので豫算にはなかつたが二百圓支出した。斯くて差引四千五百三十圓剩餘金を生じた」との説明あつて原案通り承認し可決す。

千曲會情部設置に關する件(福島) (理由)人事の移動對策は迅速機敏を必要とする所なるを以て千曲會は情報部を設け千曲會報以外の人事に關する移動其他人事上必要な各方面の事項を速報して母校人事網の完全を期する機關とせられ度き事。 提出者福島支會に代りて倉澤理事題目及理由を朗讀す。

三、當會と本部との聯絡緊密化に關する件(福島) (理由)最近當會の發展に伴ひ本部との聯絡を一層緊密にする必要あることを痛感しつゝあり。就ては其の方法に付き本部にて講究を望む。 之も提出者福島支會の出席なき故倉澤理事滿洲支會よりの書面を左の如く朗讀す。

前略 陳者今秋代議會議議題として年延引別紙の通り提案任候。會議には當會より出席不可能と存候間誠に乍勝手貴方にて適宜上程被下度候。 最近會員増加の趨勢有之候も一面會員統制の必要あり又母校よりの滿洲向候補者選擧上重要仕度點もありその緊密化を會員一致要望致し居り候。而て此際

具體的問題としては、明春正月に總會を開き候に付、それ以前に倉澤理事又は他の適任者の御派遣を願ひ充分當會の意志開陳致度候。

右達成に付、何分の御盡力願上候場合に依り、旅費等一部負擔の覺悟を有し居る事を附記致し置候(蒲生理事長宛)。

四、母校當局の社會的進出を容易ならしむる件(龍川)
龍川森本氏より次の如き提出理由説明あり「學校當局は今後益々社會との連繫を密にし同窓生の社會的活動と地位の向上を計られ度い。吾々同窓生は學校當局の社會的進出を容易ならしむる爲め活動資金として年一回宛を贈出するものとす」

六、母校職員と千曲會との共存共榮に關する件(茨城)
茨城中曾根氏より次の如き提出理由説明あり。「本會員と贊助會員との不斷の協力を徹底せしむる事。
二、母校職員出張の節は勉めて各官廳を訪問せられて知事、部長其他所長、社長等に對し卒業生の努力勤勉其他の動靜を談じ就職等に當りての善處を要望する事。
三、人事部設置の事。之は本會より金を出し東京へ設置して貰ひ度い。
四、無試験入學者推薦の件。之は地方有力者の子弟を無試験入學を許して貰ひ度いことである。
五、支會又は支會員關係團體の主催又は後援に係る蠶絲業に關する研究會又は講習講話會に對し本部に於て講師の勞を執り且つ助成金を交付する事。

七、同窓生の統制強化連絡を密ならしむる件(諏訪)
諏訪島倉氏より緊急動議として提出し左の提出理由説明あり「母校は廿五周年を經過し相當活躍してゐるが未だ他校に

比し遜色がある。特に官廳方面に於て然りである。故に茲に計畫的に人事移動刷新を計り度い」

以上七種の問題は相共通してゐる故に括して議題に供せられ度い旨諏訪島倉氏に群馬岡部氏より提議あり。議長更に私案を加へ「本會の強化活動に關する件を見出しの下に七問題を一括し第一委員會とし唐澤、中曾根、橋本、大木、八木、前田、吉田、藤又、竹内、島倉、今井、藤原、森本、登坂の十四委員を指名し、二階別席に於て委員會開催審議の結果橋本委員長より七問題を總括し左の結論を得たと報告あり。

一、各科の人事主任を統制する部長を置き更に事務を處理すべき専任書記を配置するやう母校當局に願ひ出る事。
二、各支會に通信員を設け人事部との連絡を計る事。
三、滿洲へ可成出張する様學校へ依頼する事。
四、學校當局に社會との連繫を密にし同窓生の社會的活動と地位の向上を計る事に盡力せらるやう依頼する事。

五、活動資金は左の方法に依り之を求むる事。
一、母校の斡旋に依る就職並に榮轉者より月額一割の寄附を受ける事。
二、特別寄附を求むる事。
三、廿五周年記念事業剩餘金は全部活動資金に使用する事。
四、尙活動資金の問題は第二委員會と關聯する故、後に譲り他の問題は委員會通り可決となる。

一、東京千曲會に電話を設置するの件(東京)
東京久保田氏より次の如き提出理由説明あり「昨年の代議員に於て決定せる東京支會に電話一基架設の件は其後種々研究の結果一基では不足、二基入用となつたがそれは財源上實現不可能なる故むしろ電話架設を中止しその一千圓を本會活動資金に使用し其後年々同程度の金額を活動資金に支出して欲しい。北陸提出の基本金の一割使用は多額に失し一千圓位が適當と思ふ」

編輯を千曲會が行ふ事となり、千曲會は猪坂氏より三百圓の編輯費を貰ひ三百六十圓を支出しその餘額を經營せんとす。従つて従來本會が四百圓乃至六百圓負擔したのが唯の六十圓負擔すればよい事となり昨年より名目上三百四十圓、實際には六百三十圓程の節約となつた。その剩餘金で千曲時報及び會員名簿に多少の増額を行ひ尙學術方面の部會費、研究費及び事務所費、會議費を増加し之れ丈の豫算を作つた。収入に於て基本金利息は低金利の時代となり困難を加へ最大限を書いた。斯くて前年より五百圓多い豫算を以て明年度の事業を遂行しようと思ふ」

之に對し北信猪坂氏より「豫算の内蠶絲雜費に付き豫算だからかまわぬ譯であるが、収益金三百圓は唯計上したのみか又は必ず出さなければならぬのか。將來はその位の利益は出せると思ふが始めの内は利益は無いと思ふ。それを収益金と書いたのも特別會計を普通會計に計上するの可怪しい。未だ三回發行か四回發行か決定して居らぬのに利益の方が決定してゐるのも不思議だ。回数が代議員會で決定されてから詳しい豫算を作る様にして貰ひ度い。特別會計が未だ話の餘地があると思つてゐる内に本日豫算案に計上されて實は吃驚した次第である。紙代印刷代が騰貴しつゝあり郵税が倍になると云ふ事があり却々豫算通りに行かない原因が多々ある。もう少し研究させて貰ひ度い」

之に對し林理事は「先頃交渉委員として參上せる時二、三年は缺損覺悟、數年後に希望を持つと云はれたので三百圓計上しても差支ないと思つた。是非三百圓又はそれ近い金額を支出して欲しい。収益金と云ふ言葉は會計法の形式上そう云ふ名前が計上し編輯費として支出する爲めに名付けたのである。特別會計を普通會計に計上したのは六十圓を支出する爲めである」と答へ更に東京八木氏より次の参考意見あり「出版物を契約するに口

約丈では後で面倒になる。内容は多少變更する事は出来る事として廣告は如何なる種類にするかと云ふ様な細部迄判然と契約書を取交して置く方がよい」

東京久保田氏より収入豫算に付き「通常會費収入は會員七二五人が納付する計算になつてゐるが之れでは全會員の半數では無い。本部では經費不足に困難してゐる様見受けられるが未納會費の督促こそ資金調達に最もよい宛處ではないか」と質ね林理事は「一寸見ると納入率半數強と云ふ事になるがその内には十七年間完納し其後納入しなれてもよくなつた會員が第一回から五回迄で二百人ある。又一、二回の人で十七年は經過した以前の未納會費を徴收し之は代議員會の決議に依り未納會費として基本金へ繰入れてゐるものが約百名ある。之等を加へると納入率は八十%となり他の同窓會に比し遜色あるとは思はぬ。然し會費徵集法の工夫には絶えず頭を悩ましてゐる。例へば生絲検査所の如き同窓生多數勤務してゐる處では會費を一緒に集めて送つて貰ひ手数料として一割位を割戻すも一つの方法である。尤も横濱生絲検査所では手数料は出さぬが既に實施して貰つてゐる。こんな方法も如何と考へてゐる」

三、母校創立廿五周年記念事業剩餘金處分の件(本會)
林理事より左の内容説明あり(別表參照)「剩餘金處分案の内業務整理費とは千曲會館を整備する費用と廿五周年記念事業各部の詳細報告を印刷し會員に配布する費用である。向上基金は使用せず元金としその利子を活動資金に使用するものである」之に對し近久保田氏より「會館の維持費はどうするか」と質問し林理事より「學校へ寄附せるもの故維持費の大部分は學校で出して呉れるが多少は例へば布團の如きは本會で調整せねばならぬ」と答へた。

以上三問題は相關聯し相當面倒なる故一括して第二委員會にて審議する事に決定す。議長は委員として岡部、眞木、久保田(一)、南澤、茅野、猪坂、熊谷、久保田(正)、岸、久保田(昌)、松野、蛭田、上垣内、磯野の十四氏を指名す。委員は階下別間に退きて審議の結果岸委員長より左の報告があつた。

一、の電話架設は東京支會申出の中止を承認する。
二、の豫算案は原案通り可決とす。
三、は五百圓の業務整理費、三千圓の向上基金は承認、電話の一千圓は元利共向上資金に使用する(但し年限を定めず)。尙之れのみにては活動資金に不足する故學校斡旋に依る就職榮轉者より月額一割の寄附を貰ふ事とする。但し活動資金の問題は第一委員會と關聯する故多少の變更あるかも知れぬ。

之に對し議長より「豫算の中の蠶絲學雜誌収益金三百圓は必ず出させるのか、又は二百圓でも百圓でもよいと云ふのか」と質し岸委員長より「原案通りで差支ない様に了解が出来た。必ず三百圓出すと答へ、次に林理事より「蠶絲學雜誌の契約内容に就ては理事者に一任し多少修正ある事を認めて貰ひ度い」と提案し岸委員長より「豫算は其儘とし實際に違つたら決算の時理由を述べればよい。故に修正の必要なし」と答へ活動資金の問題を除き委員會案の如く可決となる。

更に活動資金の問題に付き兩委員長協議の結果「四千圓を向上基金としその内一千圓は直ちに流用し、三千圓も代議員會の決議に依り使用し得る事とする」と意見一致し議長満場一致可決となる。
玉木三郎氏に感謝狀及記念品贈呈の件(本會)
蒲生理事より緊急動議として「前靜岡縣蠶絲課長玉木三郎氏より今般本會基本金として、金二百圓も御寄附があつた。依つて代議員會の決議に依り感謝狀と記念品を贈呈したい」と提案し万場の賛成を得て之は本部理事者に一任する事に決した。(以上)

支會通信

茨城千曲會總會

十月十七日水戸市に於て茨城千曲會總會を開く。出席者は 中山 鑑一 船後 勇平 佐藤 義助 寺島 雅彦 中曾根長男 前澤 康雄 三瓶常四郎 岡本 正男 榎原 春彦 笠原 豊



北陸支會總會

北陸千曲會に於ては十一月十四日總會を開催し役員を左の通り定めたり。

- 支會長 菅原 勇治
副支會長 佐藤良太郎
幹事 刈田 恭一 高瀬 毅一 本田 圭吉 北澤 延榮 高品喜一郎 梅村 義一

岐阜支會總會

岐阜千曲會に於ては十一月二十二日岐阜市山月にて總會を開催、左記事項を決定せり。

- 一、役員改選の件
支會長 上原 清夫
副支會長 湯澤 重敬
代議員 日比野一夫 山本奈良三郎 幹事 荻原 孫三 間宮 成吉 後藤 幸一 北澤 周一 松井 憲二

兵庫千曲會總會

十一月十四日明石市街濱館に於て兵庫千曲會總會を開催した。何時も神戸市内で開かれて居た我が兵庫千曲會總會は那部在住會員の御出席に非常不便だと云ふので種々議論の結果本年は我等同志の一夕の歡を盡すに最も相成りし明石市街濱館に於て開催されることになった。當日は土曜日もあり、折柄の秋晴れの好天氣に恵まれ半日の勞苦を慰めんものと名にし負ふ縣警明石公園の逍遙に、又全國菊花展に歩を運び清香鼻に薫じ、仙遊に遊ぶの感味を味ふ風流界の探訪者となられた方も多かつた様だつた。なほ當日の會場濱館は眞帆片帆の影も、夢のかけらの様に點綴してある海邊にあり、且つ明石海峡を隔て、一眺の下に詩の淡路島を眺め得る絶好の場所であつた。斯かる關係からか那部よりの出席五名を得、計三十名と云ふ我が兵庫千曲會としては稀に見る盛大な總會であつた。

北陸支會總會

北陸千曲會に於ては十一月十四日總會を開催し役員を左の通り定めたり。

- 支會長 菅原 勇治
副支會長 佐藤良太郎
幹事 刈田 恭一 高瀬 毅一 本田 圭吉 北澤 延榮 高品喜一郎 梅村 義一

岐阜支會總會

岐阜千曲會に於ては十一月二十二日岐阜市山月にて總會を開催、左記事項を決定せり。

- 一、役員改選の件
支會長 上原 清夫
副支會長 湯澤 重敬
代議員 日比野一夫 山本奈良三郎 幹事 荻原 孫三 間宮 成吉 後藤 幸一 北澤 周一 松井 憲二

北信千曲會總會

北信支會は毎年十月に總會を開くのが恒例とされて居たのであるが、今年には色々の都合上恒例より稍遅れて十一月八日上山田温泉清風閣で催すことにした。温泉には恵まれてゐる北信在住の會員ではあるが、春夏秋冬と新業に精進の跡も輝かしい色とりどりの紳士が、小唄の街、温泉の街、上山田に一夕の歡びを共にすべく定刻迄には早くも七十餘名が参集したのであつた。

總會

○總會
栗林支會長から開會の挨拶があつて、座長には中澤忠氏が當てられた。金崎副支會長より詳細に會計報告があり次で今次の代議員會提出の二問題

- 第一 蠶絲學雜誌改善に關する件
第二 北信千曲會分割に關する件
の協議に入り第一の件に就ては從來本誌は他の雜誌より進歩して居たのであるが近年他誌の改良の結果その特色が少くなつたから之を右の様な方法で改善したい。

二、現下の蠶絲業に就て

野崎 清氏
生絲の強きは之を構成するミセルの配列如何に依るものである事を徹に入り細に互り純學術的の御講演を承つた。又現下の蠶絲業に就ては自由經濟統制經濟より説き起されて人網の脅威、原蠶種の國家管理產處理、生絲の販賣統制に及び氏獨自の立場より縱横に論及せられ兩氏の言々熱烈なる御講演は午後一時半から六時近くまで續き會員は更に新業に對する認識を深くしたのであつた。

三、懇親會

懇親會に移つたのは午後六時過ぎであつた。飯島正胤氏が地元村長として開會の挨拶を述べ直ちに多數の美形の待るが儘に満場和氣溢るゝ内盃は交はされた。舞臺上の踊りや千曲小唄も面白くやが上にも宴は酣になつた。時に飯島村長の發議により今日の總會に錦上添花を添はさせられた兩講師に對する萬歳と北信支會の萬歳を支會長發聲の下に三唱して閉會した。時に七時半 (T.S.生)

た。當夜先生には三宮驛で御下車される豫定であつたのを、神戸驛にてお迎へした會員が先生に無理に御下車を乞ひ歓迎會に御出席を御願ひ致したる處長途の御疲れも御願ひなく、我々の我儘な希望を御容認下され貴重な時間を割愛せられ御出席下されたことは、一同の深く感謝する處であつた。御陰で三宮驛に御出迎へする御孫や會員の一部の者は、汽車が出て行つても御姿が見えないので不安の上にも、殊に御孫様方は一同御心配であつたが何とも致し方なく一先づ御宅へ引返せようとして居られる處へ、神戸驛御下車の事情が判つて一同安心、御孫様の曰く「何んだ、御祖父様を捕られてしまつた」の悲嘆の聲には何んとも御詫びの御挨拶も出来なかつた悲喜劇があつた。然し我々に取つては大勝利と言ふ譯で一同會場なる料亭菊本へと車を走らせた。かゝる悲喜劇の在つた事も御存知ない校長先生には何時も乍らの温情ある御挨拶、御視察談の一端又會員の動靜等の御話に我々は慈父に接する如く、一同感激胸に迫るものがあつたのである。

當記事は早く報告致す管であつたが幹事の怠慢で報告の一部として御報告する事を御詫びする。懇親會の模様を名文を使つて書くことは筆者の如き間拔野郎には至つて不得手に充分當夜の有様を書き現す術が無いが只我々兵庫千曲會は近年にない盛會であつたと云ふことを御想像願つて大略を書くとする。

御馳走は無くとも料理は生簗からのピン／＼料理、美妓の酒間の輪旋よるしき上に、御承知の酒は天下に其の名を知られた本場の灘の生一本と来て居る。酔はざるを得ない。我々は飲んで言ひ度い事は言ひ、喋り度い事は喋り誰に遠慮もなく一夜の歡樂を求め得られる處に此の會合の樂しみが有り又目的の一端もあるのである。

美妓連の御座付も終れば後は勝手次第

美妓連の御座付も終れば後は勝手次第だ。此席は會計の方は無論心配はなし飲め／＼歌への有様。全く一夜の極樂。時移り夜更けて、一角より萬歳唱和の聲あり一同酔眼朦朧千鳥足ながら起立、沖會長の發聲で母校の萬歳を、林鹿園學校長の發聲で我が兵庫千曲會の萬歳を三唱して總會の幕を閉ぢたのは十一時前であつた。

○懇親會
懇親會に移つたのは午後六時過ぎであつた。飯島正胤氏が地元村長として開會の挨拶を述べ直ちに多數の美形の待るが儘に満場和氣溢るゝ内盃は交はされた。舞臺上の踊りや千曲小唄も面白くやが上にも宴は酣になつた。時に飯島村長の發議により今日の總會に錦上添花を添はさせられた兩講師に對する萬歳と北信支會の萬歳を支會長發聲の下に三唱して閉會した。時に七時半 (T.S.生)

た。當夜先生には三宮驛で御下車される豫定であつたのを、神戸驛にてお迎へした會員が先生に無理に御下車を乞ひ歓迎會に御出席を御願ひ致したる處長途の御疲れも御願ひなく、我々の我儘な希望を御容認下され貴重な時間を割愛せられ御出席下されたことは、一同の深く感謝する處であつた。御陰で三宮驛に御出迎へする御孫や會員の一部の者は、汽車が出て行つても御姿が見えないので不安の上にも、殊に御孫様方は一同御心配であつたが何とも致し方なく一先づ御宅へ引返せようとして居られる處へ、神戸驛御下車の事情が判つて一同安心、御孫様の曰く「何んだ、御祖父様を捕られてしまつた」の悲嘆の聲には何んとも御詫びの御挨拶も出来なかつた悲喜劇があつた。然し我々に取つては大勝利と言ふ譯で一同會場なる料亭菊本へと車を走らせた。かゝる悲喜劇の在つた事も御存知ない校長先生には何時も乍らの温情ある御挨拶、御視察談の一端又會員の動靜等の御話に我々は慈父に接する如く、一同感激胸に迫るものがあつたのである。

當記事は早く報告致す管であつたが幹事の怠慢で報告の一部として御報告する事を御詫びする。懇親會の模様を名文を使つて書くことは筆者の如き間拔野郎には至つて不得手に充分當夜の有様を書き現す術が無いが只我々兵庫千曲會は近年にない盛會であつたと云ふことを御想像願つて大略を書くとする。

編輯室より

△十二月號は高松宮殿下の御臨臨、代議員會、清水教授の御榮轉等の特別記事があつたので十八頁の大冊となり然かも來月廻しの原稿が三篇にも及んだと云ふ凄さであつた。

△こんな豪華版になつてもホビエライな新業研究と云ふ毎日筆者がお願ひしてゐる原稿はトント無かつた。正木氏が「千曲時報を顧る」に適當と思ふ人に課題する、書くより書かせるが編輯子の腕だなんて教へて呉れたが、成程それに違ひ無い。然しいゝと知つても片手間の仕事で忙しくて思ふに任せないのを如何せんだ。こつちで請求しなくともどん／＼書いて呉れる様に會員がなつて呉れたらなら、と勝手か知らんが考へてゐる。

△清水先生の御退職は十月の事で今更之の記事を載せる事は聊か時期遅れの嫌ひがあるが之は先生の御意志に依るものである。編輯子の怠慢と誤解されるのを恐れて一寸辯解して置く次第である。

△高松宮殿下が御入信の御り特に本校に御臨臨遊ばされたのは科學御獎勵の深き思召に依るものにして感激措く能はざるものがある。我等は奮勵努力もつて御心に副ひ奉る様にしなければならぬ。尙折好くも當日代議員會開催され遙々遠路より來校の代議員諸氏が之の榮ある列に參加する事が出来たのは深き喜びとせねばならぬ。

△今回の代議員會に於て永年懸案の本紙の冊子問題が提出され愈々明年四月から冊子として更生する事になつた。前々から多少は考へてゐた事であるが愈々決定して見ると今更乍らどんな體裁にしたらよいか周章してゐる始末である。今迄に腹の決まつたのは菊版、六號活字二段乃至三段組位で其他の事項例へば表紙をつけるか否か、從來の千曲時報の表紙をその儘使用するか否かと云ふ様な事は未だ迷つてゐる處である。いゝ考があつたら教へて欲しい。又いゝサンプルがあつたら送附して欲しい。アナタの最も好ましい冊子を作る爲めに。

△多難なりし蠶絲業も漸く曙光を見せて本年は終らんとしてゐる。來る年も之の調子でありたいと願ふものである。さらば諸氏よ樂しく年を越されん事を。

投稿規定

一、内容は不問、平易なる學術研究、會員消息に關する物は特に歡迎。取捨は當方に一任せられたり。編輯の都合に依り全部又は一部來月廻しとなる事がある。

一、原稿は特に豫め申込無き限り返戻致しません。

一、締切は毎月六日限、特に一月號は一日發行とする爲め二十日限とする。

一、原稿は開封し二錢切手(第四種百十瓦迄)を貼布して送附し通信文があつたら別に葉書等にて通知されるが得策である。

一、必ず原稿紙を使用し明瞭にお書き下さい。又句讀點を必ず施して一字分の間隔を置いて下さい。

一、匿名で掲載希望の場合も編輯部丈へは姓名を明示下さい。然らざる時は遺憾乍ら掲載を見合せる場合があります。

一、圖面や寄せ書は一尺八寸×一尺三寸以内とし必ず白紙に墨書して下さい。原稿紙は御請求次第送附す。普通の原稿紙を使用する場合は一行十八字支書込まれ度。

廣告規定

寸法	期間	一月	六月	一年
一頁	一頁	1,000	5,000	10,000
1/2頁	1/2頁	500	2,500	5,000
1/4頁	1/4頁	250	1,250	2,500
1/8頁	1/8頁	125	625	1,250
1/16頁	1/16頁	62.5	312.5	625
1/25頁	1/25頁	31.25	156.25	312.5

但し本會員は七掛とす。

河合器械舖
電話二一七番
振替長野七八四番

御宴會に御會食に
レストラン 香青軒
明朗な洋室 落付いた
和室 (數室)
上田市袋町 電話13番

御來田のお土産は
みずり、上・のフルーツ
杏ゼリ、チョコ、フルーツ
水飴、黒ク、羊羹
杏羊羹、果物類、餛飩
信濃そば

上飯島商店
上田市松尾町
電話二六〇・二五四

千曲會指定旅館
上村ホテル
上田市海野町
電話三二七番

千曲會指定旅館
花屋ホテル
電話一三三番
三二番

柏屋別荘
電話一二二番

茶代廢止
御宿料二圓

昭和十一年度製造原蠶種

國蠶日八號	國蠶歐十九號
佛純白蘭	分離白一號
國蠶歐十六號	國蠶支十六號
國蠶支十七號	龍華仙
國蠶日一一號	國蠶支一〇七號
國蠶支一〇六號	浙江

普通蠶種(春)
白×國蠶歐十九號 ×國蠶日八號
×國蠶支十七號 ×國蠶支十七號
×浙華江仙

廣島縣御調郡奥村綾目六
蠶種業 **小川保**
振替(廣島)二四六番
振替(大阪)三三三番

2597 春蠶種 熊本長野

富豐量卵
定安作蠶
富豐量繭收
良優質絲

國蠶日一一號	國蠶支一〇七號
國蠶歐一九號	國蠶支一〇七號
國蠶日一八號	國蠶支一〇七號
國蠶歐一六號	國蠶支一〇七號
分離白	國蠶支一〇七號

會照御他其績成驗試▷
◁候上申報速第次

五〇六町江大市本熊
組種製野長
電話九五八番
振替熊本三〇〇番